

平成 23 年度
すまいる沿線住民
アンケート調査
報告書

平成 24 年 3 月

I 調査の概要

1. 調査の目的 すまいるバスの利用者数が昨年度に引き続き大きく減少し続けており、50万人を下回る見込みである。そこで沿線住民への郵送アンケート調査を実施し、最近の利用状況や乗車を促す要因、満足度等を把握する。
2. 実施機関 まちづくり福井株式会社
3. 調査期間 平成24年2月6日（月）から平成24年2月29日（水）まで
4. 調査対象者 すまいるルート沿線住民1,200人（18歳以上80歳未満）
1ルートにつき10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の各年代別で女性30名と男性20名（30名+20名）*6年代*4ルート
（住民基本台帳から地区人口比率、年齢比率を考慮して無作為に抽出）
5. 実施方法 郵送配布、郵送回収
6. 回収数 回収率 38.8%（配布数1,200件、回収数465件）

※この調査結果にいう「平成17年度すまいる沿線住民アンケート」について

調査期間：平成17年12月2日～31日

調査対象者：木田・板垣方面の沿線200mに住まいの住民1,000名

城東・日之出方面の沿線200mに住まいの住民1,200名

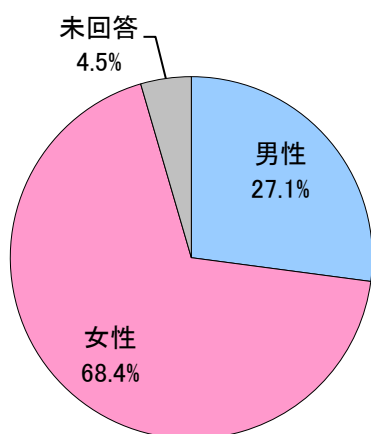
（世帯の代表1名が記入）

Ⅱ 調査結果

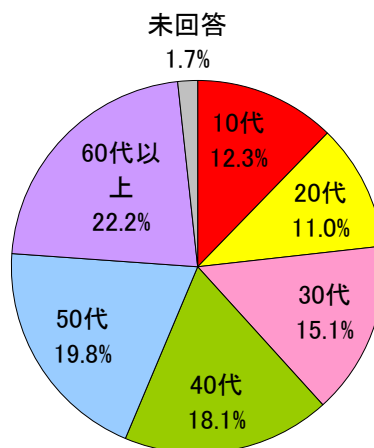
1 回答者の属性

※n=サンプル数

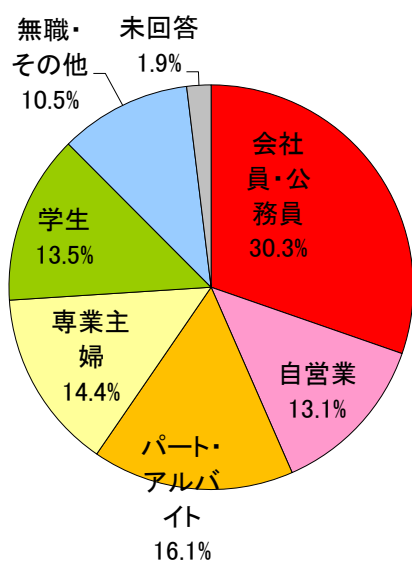
(1) 性別



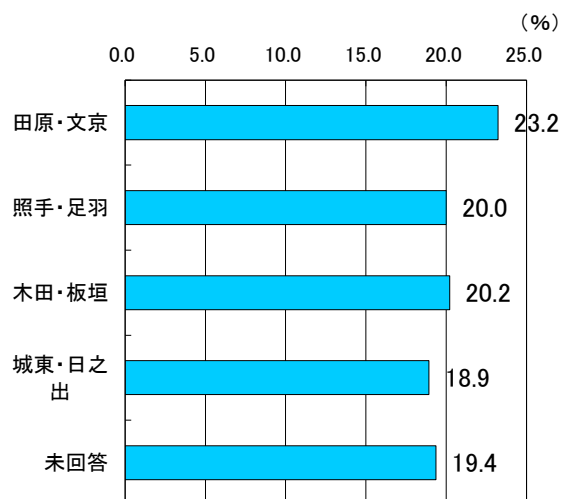
(2) 年齢



(3) 職業



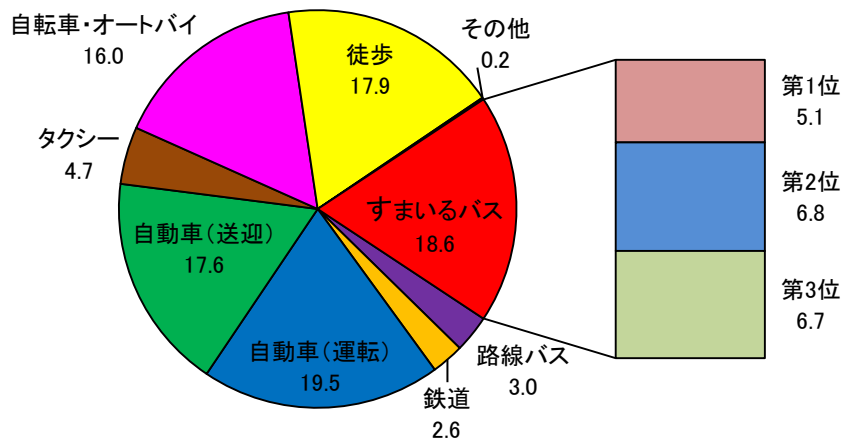
(4) 利用ルート



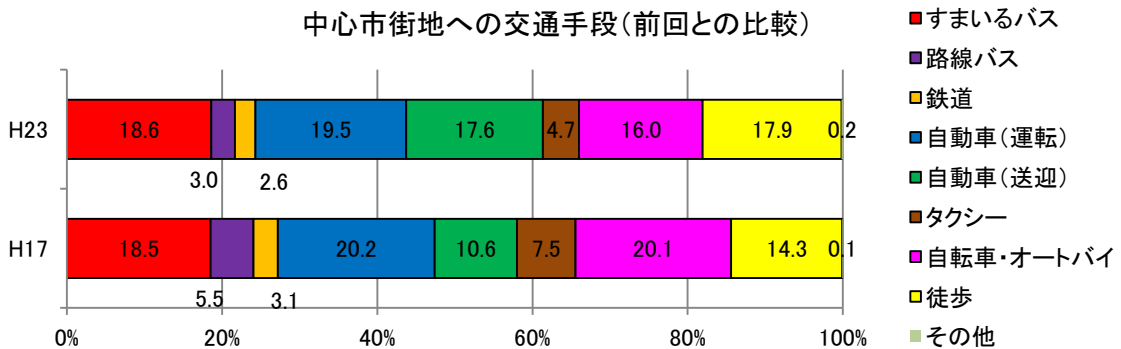
2 中心市街地への交通手段

この質問は上位第3位まで回答する複数回答形式であり、下のグラフはその合計である1,275件の内訳である。今回の調査では多く利用している交通手段は「自動車（運転）」で、続いて「すまいるバス」、「徒歩」、「自動車（送迎）」の順であった。平成17年度に行った調査と比較すると、「自動車（送迎）」と「徒歩」が増加し、「路線バス」、「タクシー」、「自転車・オートバイ」が減少した。

中心市街地への交通手段



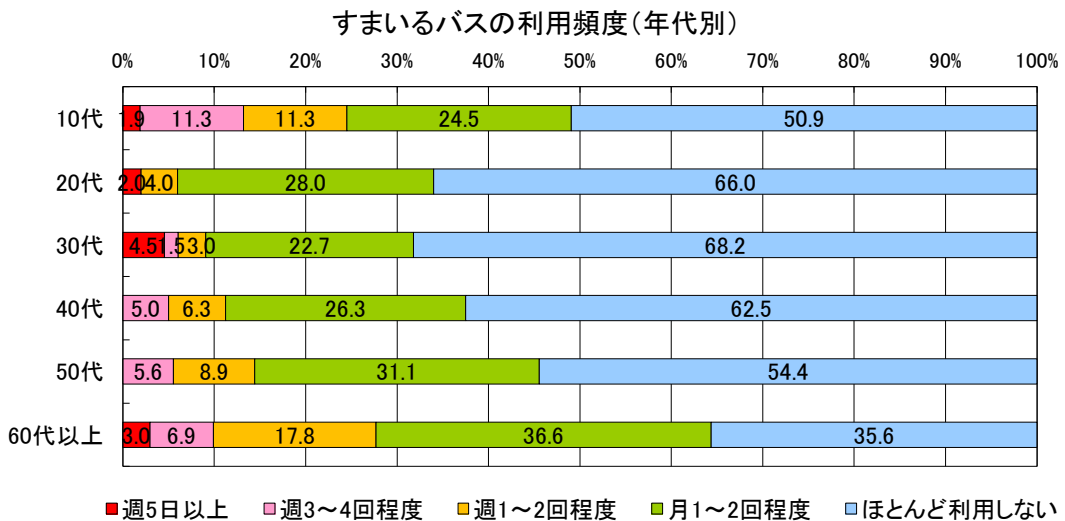
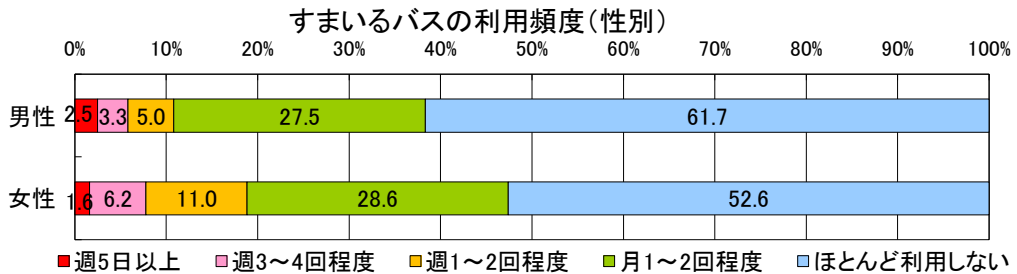
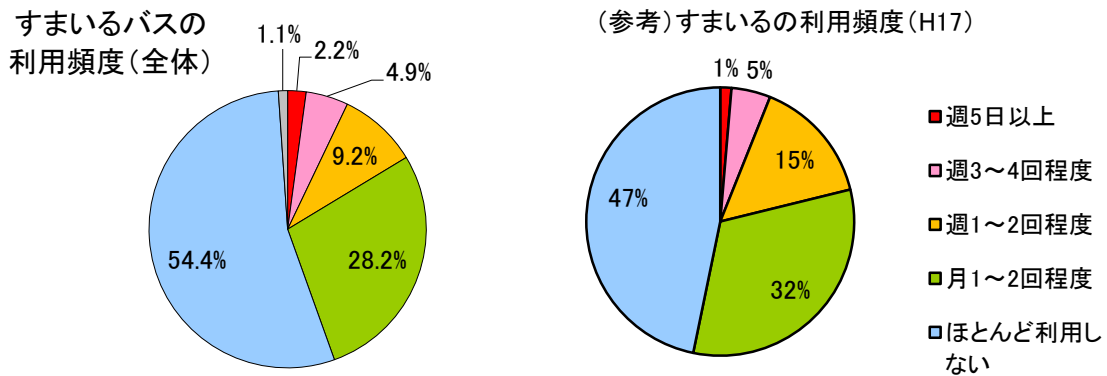
中心市街地への交通手段(前回との比較)



3 すまいるバスの利用頻度

沿線の市民がどのくらい「すまいるバス」を利用しているか示した結果は下記の通り。月1回以上乗車している人を利用者とする、回答者の利用割合は45.0%（未回答を除く）であった。（以下月1回以上乗車している人を「利用者」という。）

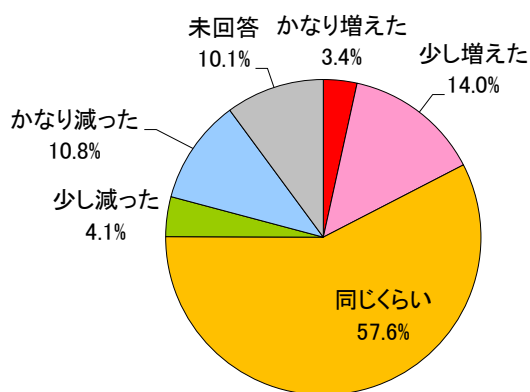
性別でみると女性の利用割合が男性を上回り、年代別では60代以上が最も利用割合が高く、次いで10代、50代の順であった。ただし、「週5日以上」の回答が20代と30代にあり、通勤の足として一定の利用があると思われる。



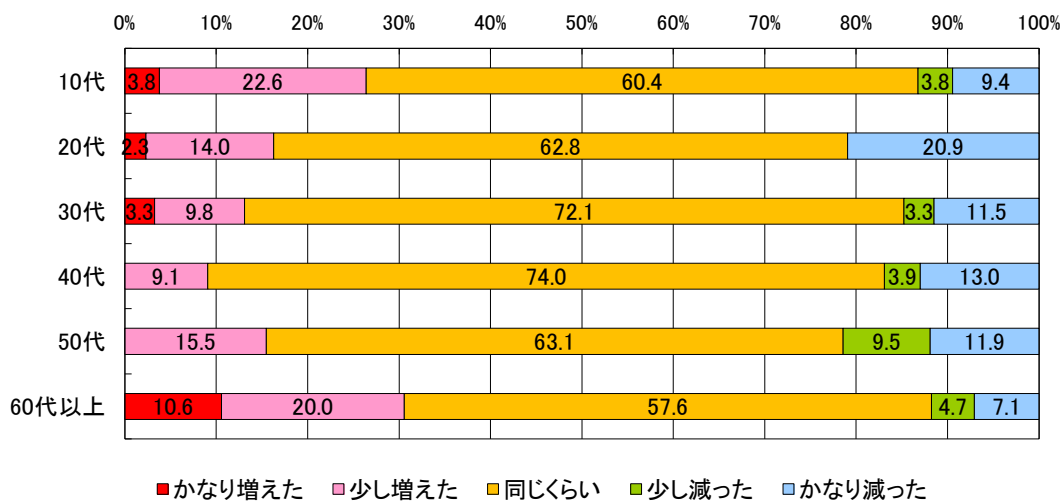
4 すまいるバスの利用状況

1年前と比べて「すまいるバス」の利用の変化を示した結果は下記の通り。「同じくらい」が半数以上を占め、「増えた」と「減った」は15%前後でほぼ同等であった。年代別で見ると「増えた」は60代以上、10代、20代の順で高く、「減った」は50代、20代、40代の順で高くなった。

すまいるバスの利用状況(全体)

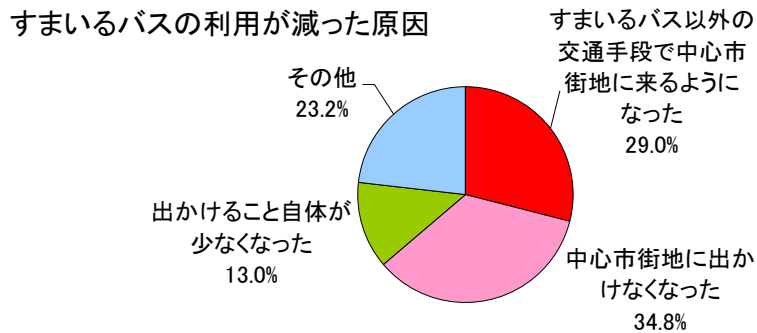


すまいるバスの利用の変化(年代別)



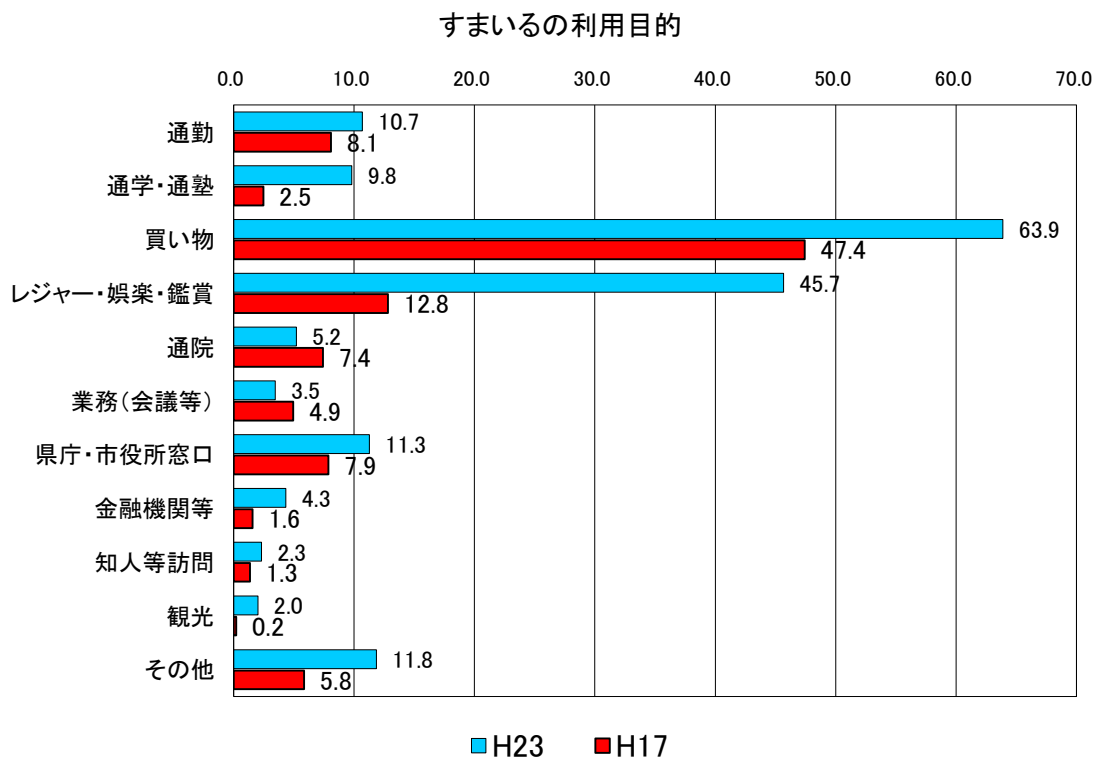
5 すまいるバスの利用減少の原因

4 すまいるバスの利用状況で「少し減った」及び「かなり減った」と回答した66名に、その理由を尋ねた結果は下記のとおり。「中心市街地に出かけなくなった」(34.8%)、「すまいるバス以外の交通手段で中心市街地に来るようになった」(29.0%)、「出かける事自体が少なくなった」(13.0%)の順となった。



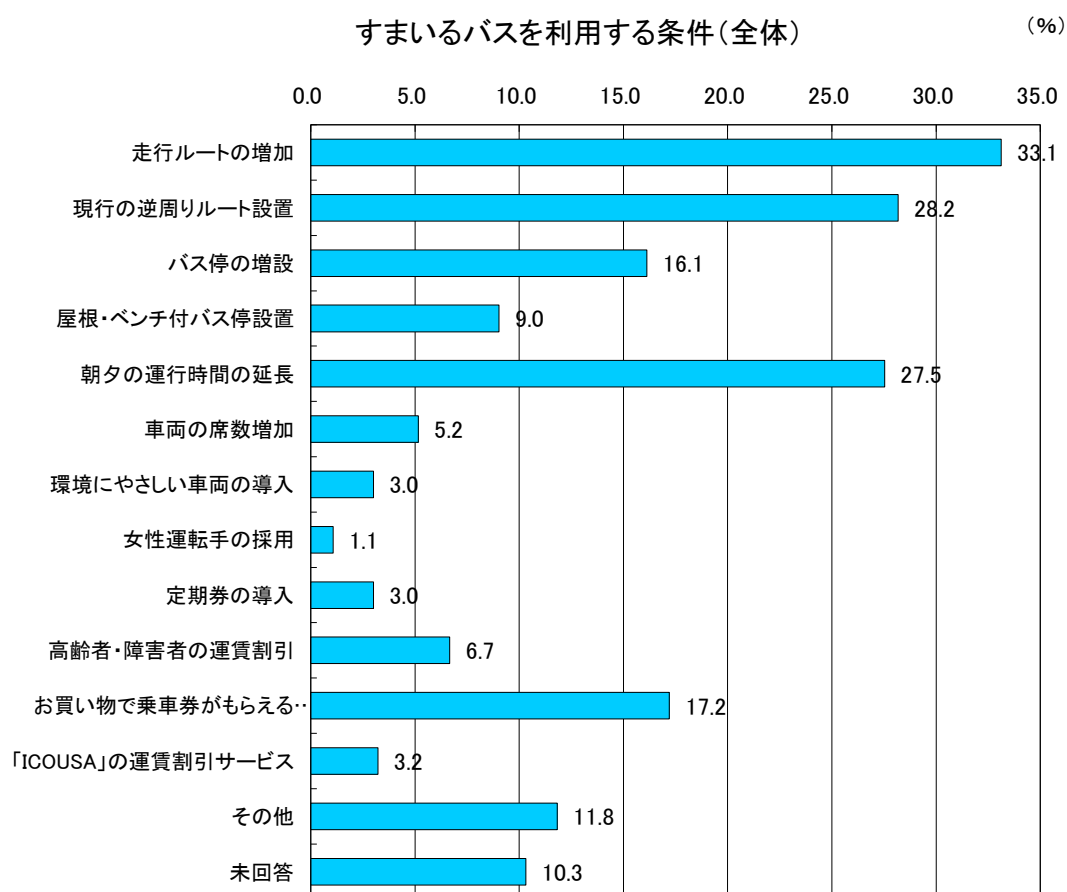
6 すまいるバスの利用目的

すまいるバスは、上位から「買い物」、「レジャー・娯楽・鑑賞」、「県庁・市役所窓口」、「通勤」の目的で利用されている。

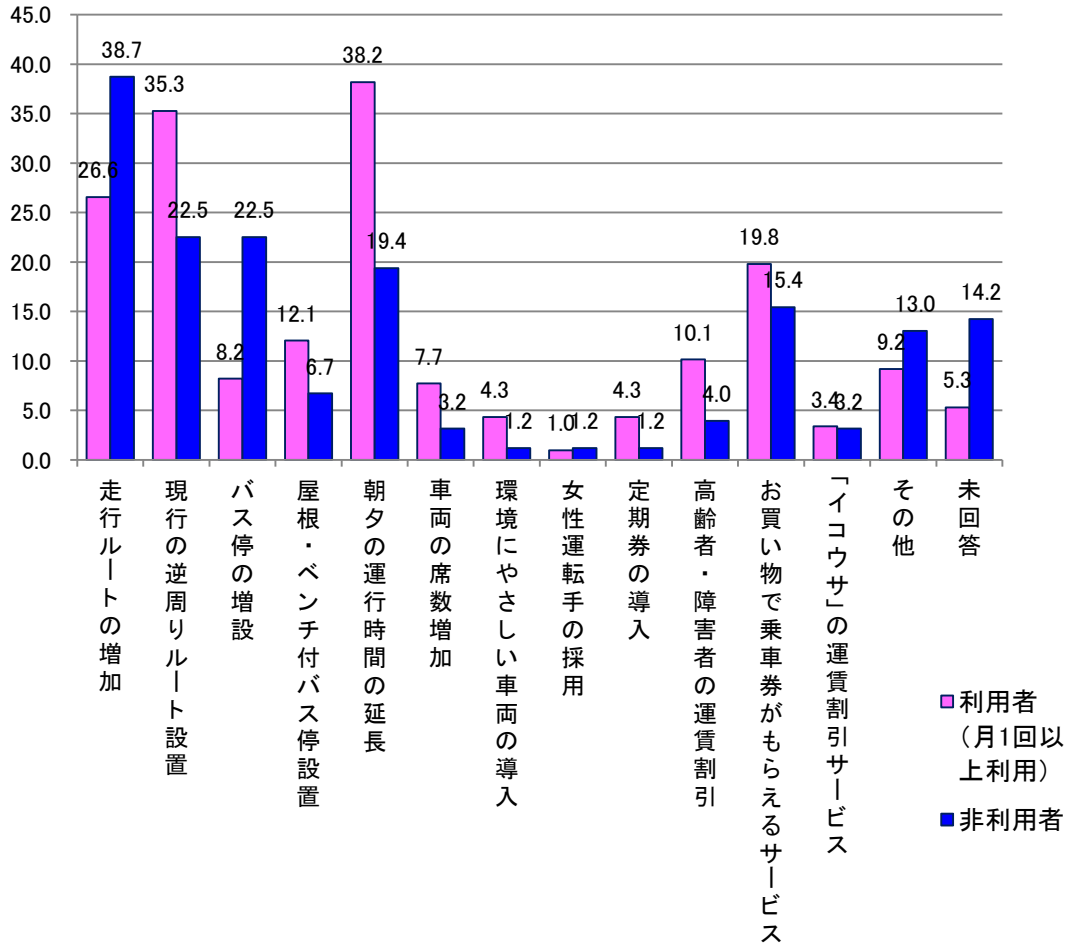


7 すまいるバスの利用条件

どうすれば今以上に「すまいるバス」を利用するか（2つ選択の複数回答方式）、示した結果は下記のとおり。割合の高い順から「走行ルートが増加」、「現行の逆周リルートの設置」、「朝夕の運行時間の延長」、「お買い物で乗車券がもらえるサービス」、「バス停の増設」となった。すまいるバスのルート沿線の市民を対象としているため、今回の「走行ルートが増加」には目的地の増加（大和田や運動公園）だけでなく、逆周リルートや運行便数の増加など総合的な見直しを指すのではないかと思われる。「すまいるバス」の利用者と利用しない人で集計したところ、利用者は運行時間の延長や逆周リルート、運賃サービスを強く求めているのに対し、利用しない人はルートやバス停の増加など利便性を利用条件に挙げている人の割合が高かった。



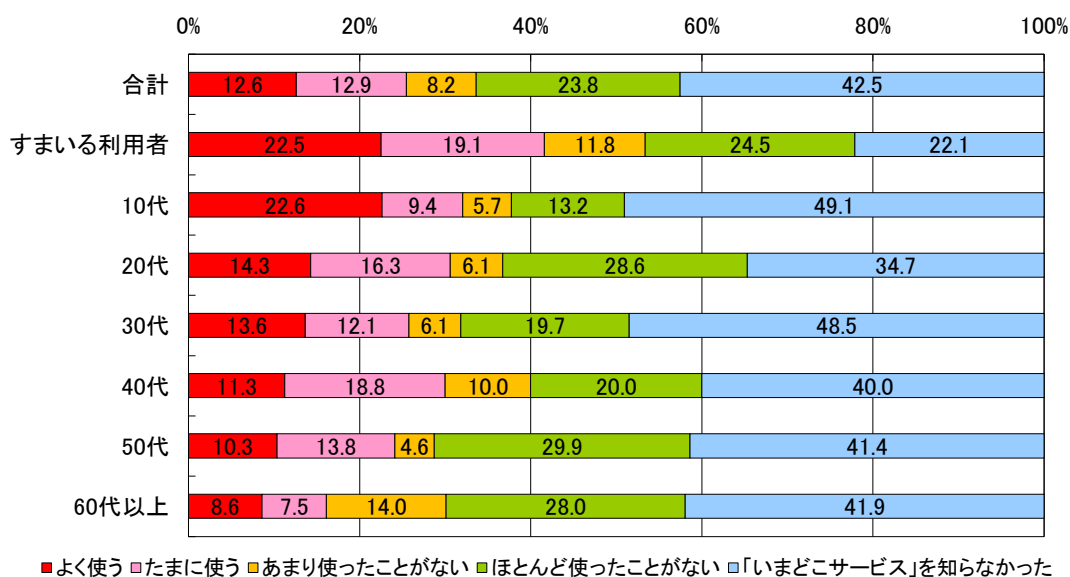
すまいるバスを利用する条件(利用者・非利用者別)



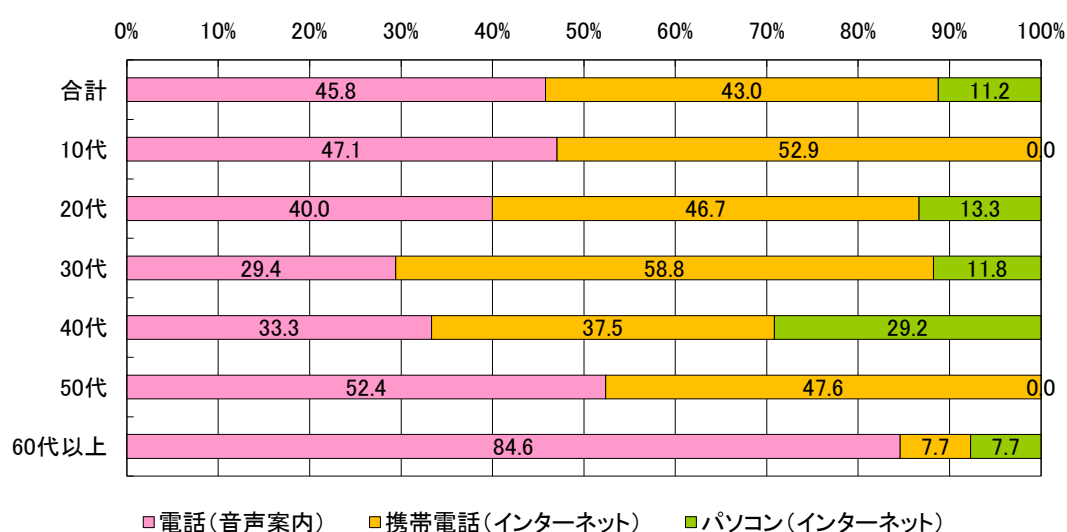
8 すまいるバス位置情報システム「いまどこサービス」について

すまいるバスの走行位置情報をお知らせする「いまどこサービス」の利用状況は下記のとおり。回答者の約4分の1(25.5%)、すまいる利用者の約4割(41.6%)が「使う」という結果だった。年代別で見ると若い年代ほど利用が高く、年代が高くなるほど「電話（音声案内）」の利用が大きかった。

いまどこサービスの利用状況

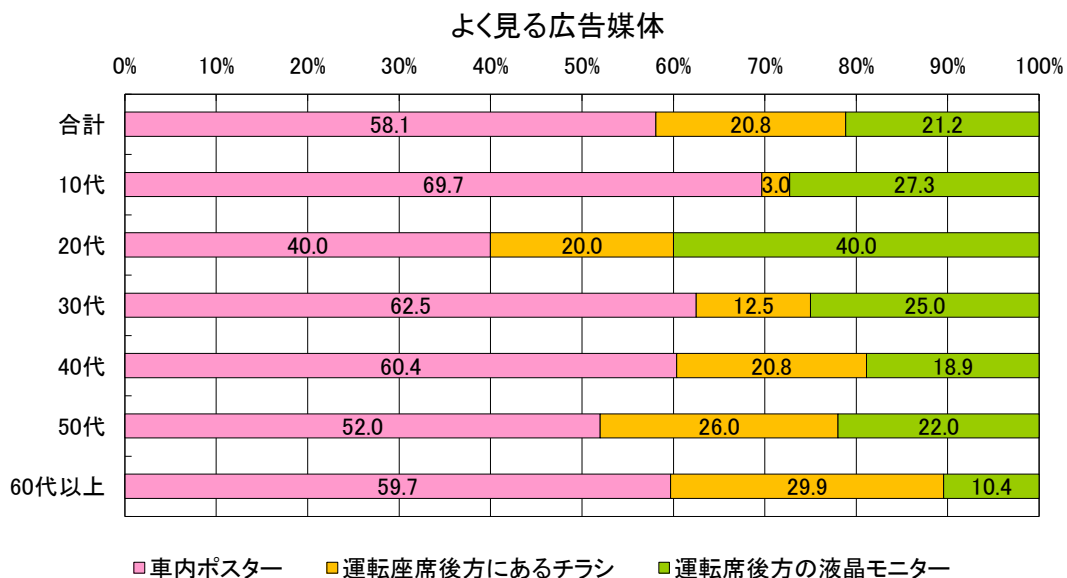
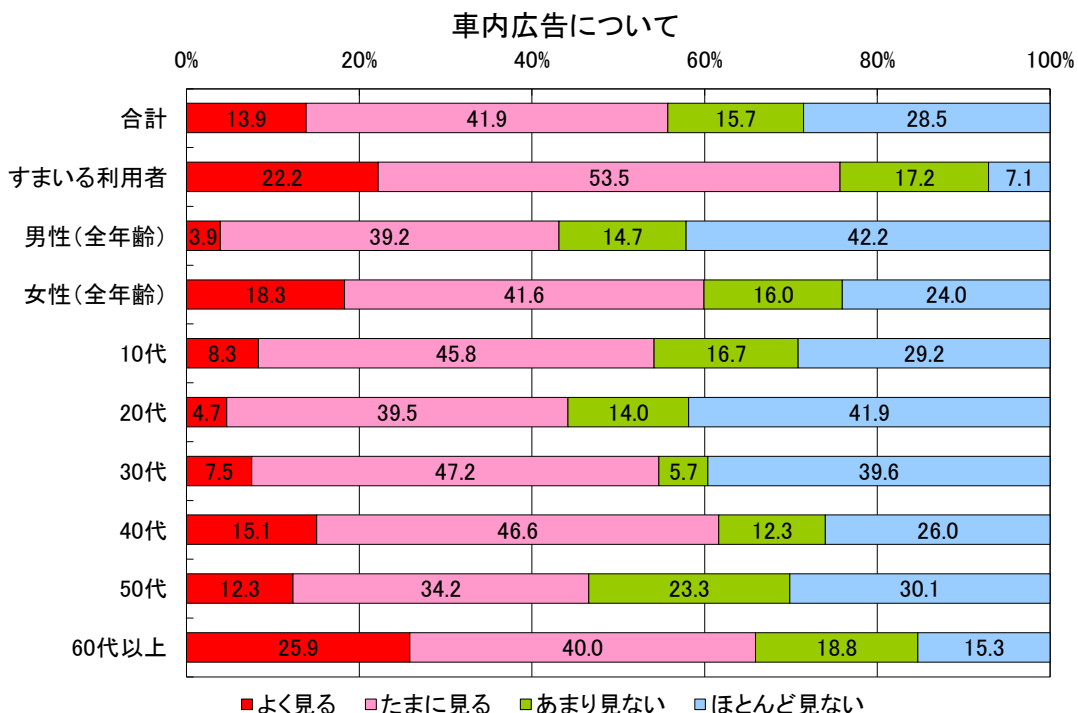


いまどこサービスの利用手段



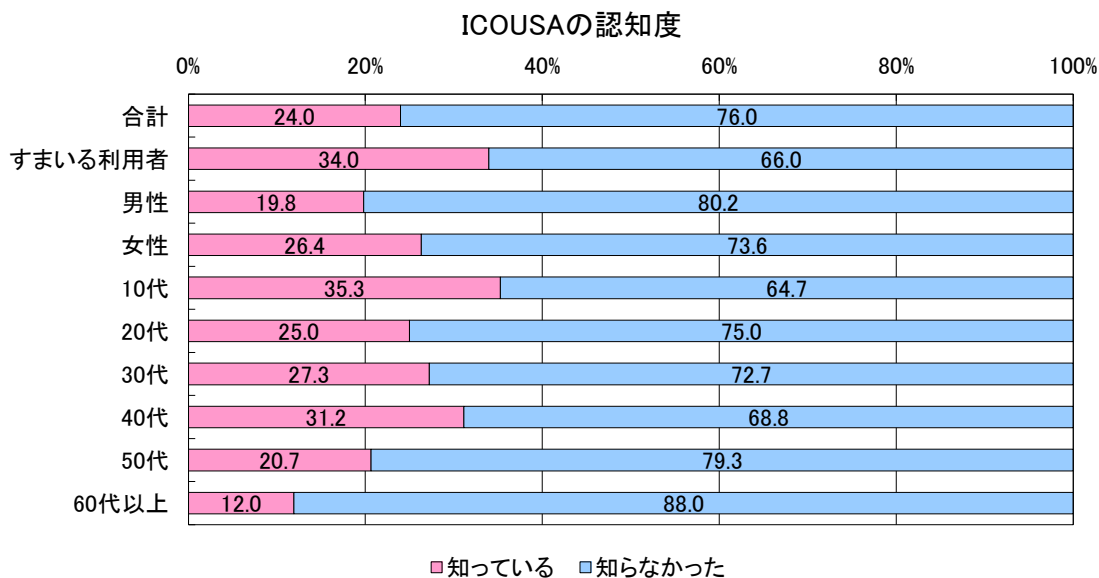
9 すまいるバスの車内広告について

すまいるバスの車内広告の効果については下記のとおり。全体では約6割が「見る」、すまいる利用者は約4分の3が「見る」と高い結果が得られた。性別で見ると女性が「よく見る」割合が男性の約9倍高く「見る」割合が男性を16.8%上回った。媒体としては、「車内ポスター」がすべての年代で最もよく見られており、40代を境に若い年代は「液晶モニター」が、上の年代は「チラシ」が第2位であった。

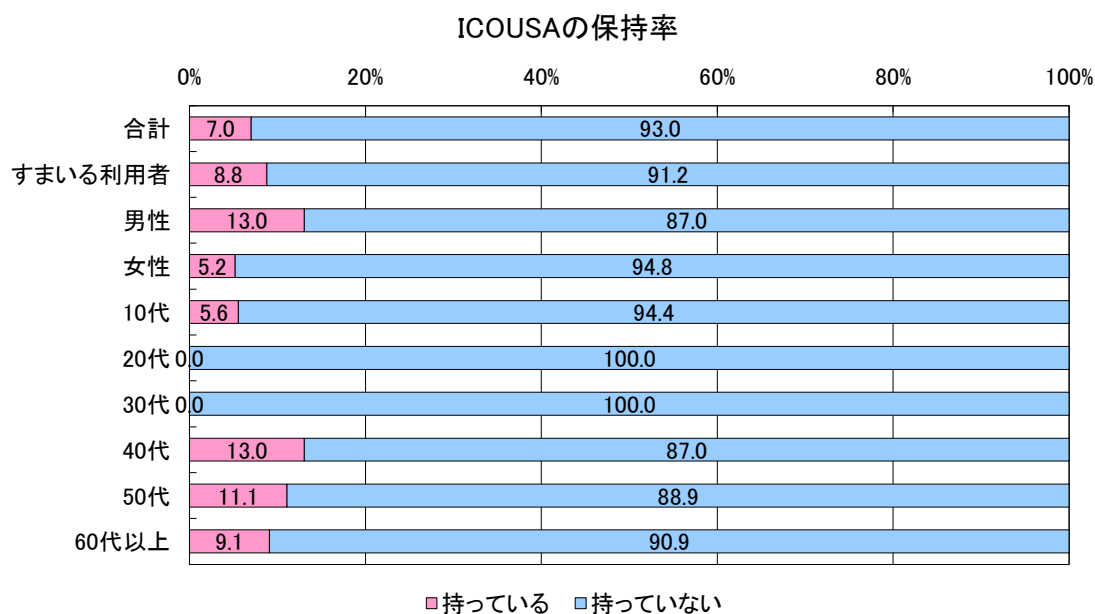


10 ICカード「ICOUSA」について

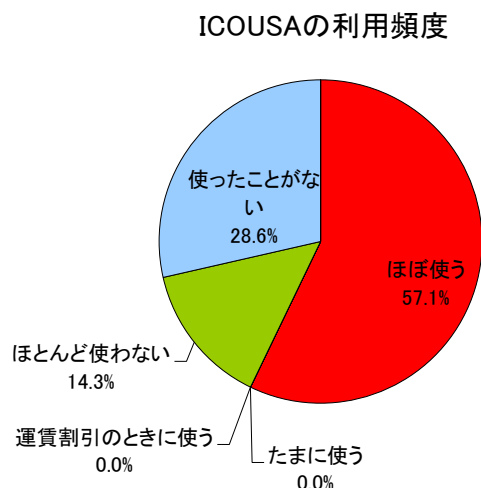
すまいるバスや中心市街地の店舗で利用できるICカード「ICOUSA」についての調査結果は下記のとおり。まず認知度については「知っている」が約4分の1であった。性別では女性の、年代別では40代より若い年代の認知度が高かった。



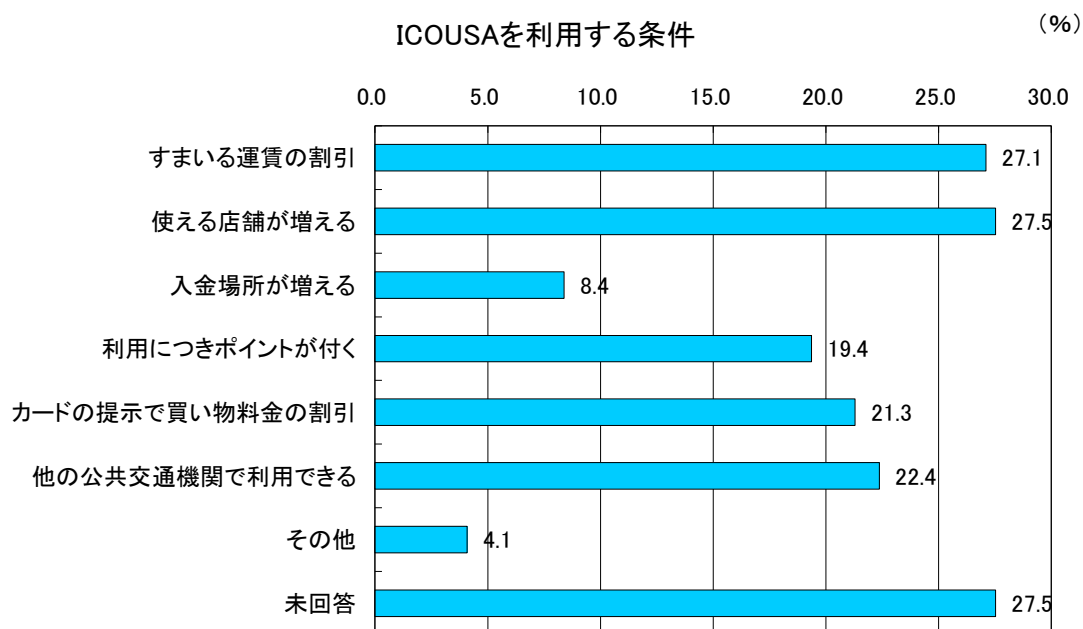
上記質問で「知っている」と回答した方に「ICOUSA」を保持しているか尋ねたところ、7%が「持っている」と答えた。意外にも認知度とは逆に性別では男性が、年代別では10代と40代以上が多く保持している結果が得られた。であれば、保持の可能性が高い層に「ICOUSA」のPRが届いていないおそれが考えられる。なお、回答者全体でみた「ICOUSA」の保持率は1.5%であった。



また、「ICOUSA」のカードホルダーに利用頻度を尋ねたところ、「ほぼ使う」ユーザーが半数以上を占め、また「ほぼ使う」と「ほとんど使わない」・「使ったことがない」に二極化される結果となった。

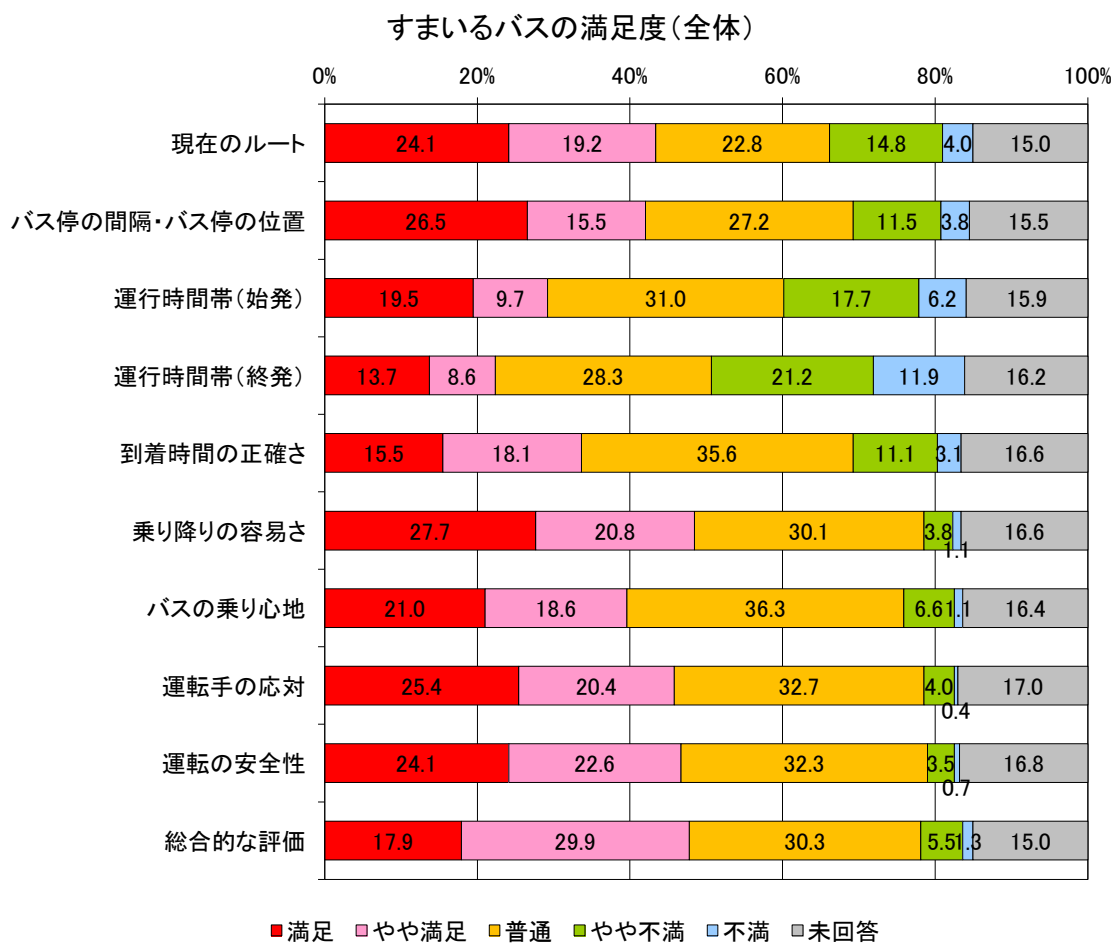
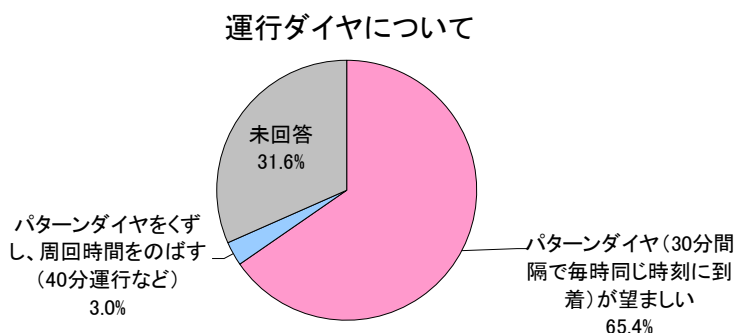


最後にどうすれば今以上に「ICOUSA」を利用するか（2つ選択の複数回答方式）示した結果が下記のとおり。どの項目も同じ程度の回答となったが、若干ではあるが料金サービス面より利用場所の拡大の割合が大きかった。

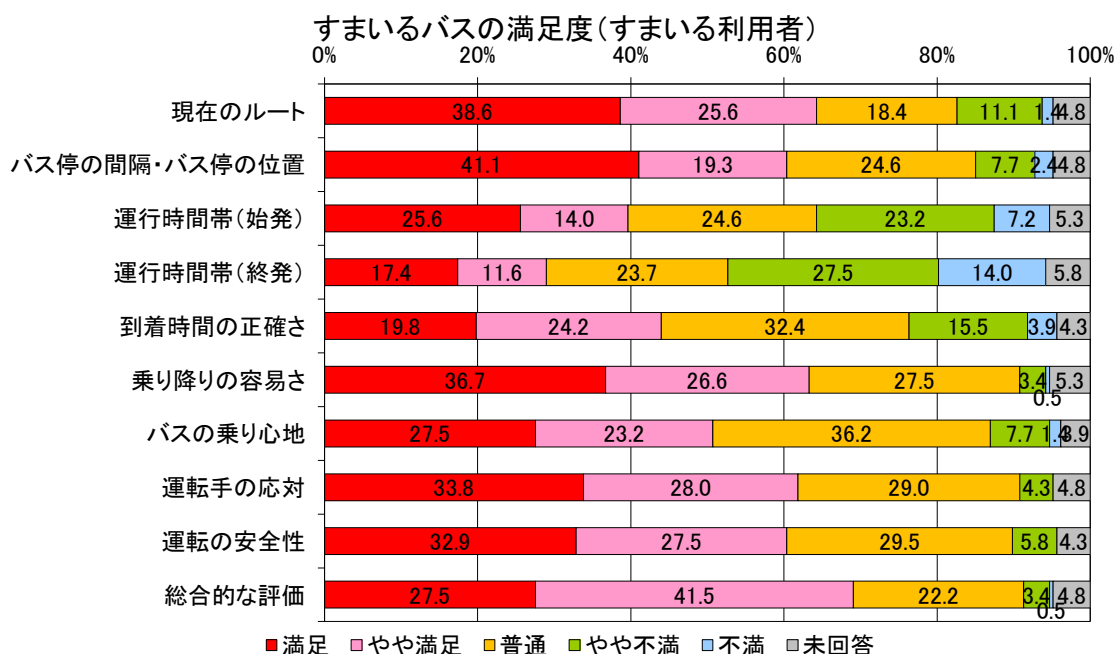


1.1 すまいるバスの満足度

沿線の市民に「すまいるバス」を評価していただいた結果は下記のとおり。運行ダイヤについては95.6%（未回答を除く）が「パターンダイヤが望ましい」と回答した。また、その他の項目について満足度を尋ねたところ、満足度の高い項目上位は「乗り降りの容易さ」、「運転の安全性」、「運転手の対応」の順で、低い項目は「運行時間帯（終発）」、「運行時間帯（始発）」、「到着時間の正確さ」の順であった。「総合的な評価」としては、「満足」が56%、「普通」が35.9%、「不満」が8.1%であった。（未回答を除く）



また、満足度をすまいる利用者でみたところ、すべての項目について「満足」「やや満足」が全体を上回った。しかし、「運行時間帯（始発）」、「運行時間帯（終発）」、「到着時間の正確さ」については、「不満」「やや不満」の割合が全体の数字と比べて大きかった。



最後に H17 年の調査と比較すると、「運行時間帯（始発）」、「運行時間帯（終発）」、「運転手の対応」について満足度が低下し、「現在のルート」、「到着時間の正確さ」について満足度が上昇した。「総合的な評価」については、不満度はさほど変わらないものの、満足度は 10%低下した。

